

特別活動

特別活動においては、主権者として積極的に社会参画する力を育むことが課題です。そのため、社会の形成者である主権者に求められる資質・能力を明確にすること、生徒の自発的、自治的な活動となるよう一連の学習過程を整理すること、問題の発見や話し合いにおいてICTを効果的に活用するなど、指導方法の工夫・改善を図ることが大切です。

I 目標の明確化や評価の充実のポイント

社会参画する力を育むためには、学習指導要領を踏まえ、発達の段階に即した目指す生徒の姿を設定し、評価規準や評価方法・場面等を共有して指導を積み重ねていく必要があります。とりわけ、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の一つである「主権者として求められる力」に当たっては、生徒にとって一番身近な社会である学級や学校の生活の充実と向上を図ることを目指す、学級活動(1)における話し合い活動や、生徒会活動、学校行事の勤労生産・奉仕的行事などを通して、次のような資質・能力を育成することが重要です。

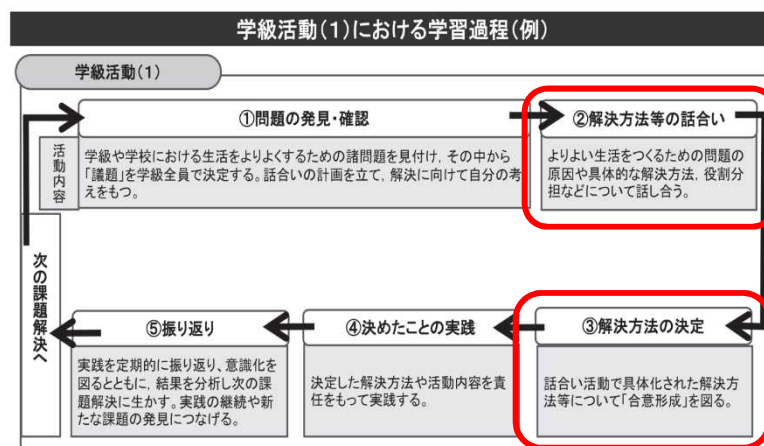
【社会の形成者である主権者に求められる資質・能力】

- ①集団や社会における人間関係をよりよく形成する「人間関係形成」
- ②自分たちの集団の生活上の課題解決に向けた自発的、自治的な関与である「社会参画」
- ③なりたい自分やよりよい自分を目指し、目標をもって取り組む「自己実現」

II 指導計画の改善のポイント

社会参画する力を育むためには、生徒が自発的、自治的に活動に取り組むことができるよう、活動を振り返る場や機会を適切に設定し、実践を振り返る中で気付いたよい点や改善点を生かして次の活動や課題解決につながる動機付けを行っていくことが大切です。

右図の②や③の活動が学級活動(1)の授業で扱われますが、教師は、授業時間以外の休み時間や放課後等の活動も視野に入れ、事前、事後の活動を含めた計画を立てるとともに、生徒の自発的、自治的な活動となるよう、見通しをもたせ、価値付けることが重要です。



【中学校学習指導要領解説特別活動編P42】

III 手立ての充実のポイント

問題の発見・確認や解決方法等の話し合いを行う際には、例えば、1人1台端末を活用して意見を収集したり、思考ツール等を用いて意見を共有し、練り合い、合意形成を図ったりするなど、自発的、自治的な活動を意識しながら、ICTを効果的に活用することが考えられます。

また、特別活動の指導を行う際には、知識や技術を教授するのではなく、特別活動の実践活動や体験活動を通して体得させていくようにする必要があります。各学校においては、生徒の特別活動における学びが積み重なるよう、次のような取組により、教師が共通の指導を行う必要があります。

- 『中学校特別活動指導資料』などを活用し、学校全体で共通理解を図り、共通した指導を行うこと
- 特別活動主任を配置し、研修や授業実践を行い、学校全体の取組の充実を図ること
- 学習過程に応じて1人1台端末を活用する場面や活用する内容を学校全体で検討すること
- 話し合い活動等の経験の積み重ねを中学校へ引き継ぐ連携体制を構築すること

主権者として積極的に社会参画する力を育む計画の改善

< 議題 >

「いじめや暴力のない学級・学校づくり」


【Ⅰ 育成を目指す資質・能力の明確化】

・主権者に求められる力を踏まえ、特別活動において目指す資質・能力について、学習指導要領に基づいて明確にしている。

< 評価規準 >

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。 合意形成のための手順や活動の方法を身に付けている。	学級や学校生活をよりよくするための課題を見いだしている。 課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。	学級や学校における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとする。

< 指導計画 >

時間	○ 学習活動 ・指導上の留意点	□ 評価規準・評価方法等	
事前 (朝の会や帰りの会など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の生活を振り返るアンケートを実施して、議題を決定する。 ・アンケート作成や集計は学級委員がアンケートフォームを使って行い、学級活動に向けて議題を決定する。 ○ 学級委員会を実施し、提案内容について検討し、学級活動の流れや役割を確認する。 ・学級担任は、アンケート結果の集計及び公表について、生徒のプライバシー等に配慮するように指導する。 ○ 学級全体に議題を周知し、学級活動において協議することを伝える。 	<p>※記録に残す評価は行わないが、学級担任は、議題に対する生徒一人一人の考え等を把握し、次の学級活動の評価に生かす。</p>	<p>【Ⅱ 事前、事後の活動】</p> <p>・自分自身に何ができるかを主体的に考えて意思をもって取り組むことができるよう、本時の活動に加え、事前、事後の活動を含めた指導計画を作成している。</p>
学級活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級委員が議題を提案し、アンケート結果等に基づいた提案理由を学級全体に共有する。 ・学級担任から本時のねらいを話す際、いじめや暴力に関する定義を確認するとともに、関係する法律等に触れるようにする。 ・アンケート結果を可視化し、議題に基づいて話し合う意義について理解することができるようにする。 ○ 議題に基づいて、学級全体で生活の改善方法を話し合う。 ・学級委員が進行し、学級担任は議題に沿った話し合いになっているかを見取る。 ・できるだけ多くの生徒が意見を表明できるように端末等を活用した手立てについてあらかじめ準備しておく。 ○ 話し合いに基づいて、学級全体の行動目標や今後の取組について、全体で共有し、生徒会への提案をまとめる。 ・学級の話合いの後、キャリア・パスポートに行動目標や今後の実践を話し合った過程についての自分の考えを記す。 	<p>[知・技] 端末記録等 ・互いの意見や可能性を生かした話し合い活動の仕方を身に付けている。</p> <p>[思・判・表] 観察、キャリア・パスポート等 ・異なる意見から共通点を見だし合意形成に向け取り組んでいる。</p>	<p>【Ⅲ ICTの活用】</p> <p>・個人が学級や学校という集団に関与し、主体的に課題を解決できるよう、話し合いでは、アンケートフォームや思考ツールを用いて意見を共有するなど、合意形成に向けた自発的、自治的な活動を意識してICT機器を活用している。</p>
事後 (生徒会活動など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめや暴力のない学校づくりに向けた学校全体の行動目標を決め、具体的な取組内容を生徒総会で決定し、周知する。 ・生徒会役員は取組内容をどのように検証するかを検討し、決定する。 ○ 学校全体の行動目標や具体的な取組について振り返り、検証する。 ・個人の振り返りを学級委員が集約し、次の学級活動に向けた提案内容を検討する。 	<p>[主] 観察、キャリア・パスポート等 ・行動目標を踏まえ、個人の目標に取り組もうとしている。</p>	<p>【参考資料】</p> <p>『主権者として求められる力』を子供たちに育むために」 (文部科学省)</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">令和4年9月</p>